

# ChatGPT 4.5 について概要と評判を詳しくまとめて

2025年2月、人工知能の世界に新たな一歩が刻まれました。OpenAIが最新モデル「ChatGPT 4.5」を発表し、AIの可能性を再び拡張しました。本報告書では、このモデルの技術的特徴、性能向上、ユーザー評価、そして市場における位置づけを詳細に分析します。

## ChatGPT 4.5の概要と基本情報

ChatGPT 4.5は、2025年2月27日にOpenAIによって正式に発表された最新の大規模言語モデルです。このモデルは、従来のGPT-4シリーズからの進化版として位置づけられ、次世代のGPT-5へと繋がる過渡的なバージョンとしての役割も担っています<sup>[1]</sup>。リリース当初は、月額200ドル（約3万円）のChatGPT Proユーザー向けに限定公開され、その後、週を追ってPlusやTeamプランのユーザーにも順次開放される予定となっています<sup>[2]</sup>。

このモデルの最大の特徴は、教師なし学習（Unsupervised Learning）を大規模にスケールアップしたことにあります。これにより、パターンの認識や関連性の整理、創造的な洞察を生成する能力が大幅に向上しました<sup>[3]</sup>。初期のテストでは、このモデルとの対話がより自然に感じられ、誤情報生成（ハルシネーション）の頻度も大幅に低減していることが報告されています<sup>[3]</sup>。

GPT-4.5の主要な進化点として、より深く広い世界知識の獲得、自然でインテリジェントな対話能力の実現、そして高度な情緒的知性（EQ）の実装が挙げられます。これらの改良により、ユーザーとのコミュニケーションの質が格段に向上しています<sup>[3]</sup>。

## 技術的特徴と性能向上

### 回答精度と情報正確性の飛躍的向上

ChatGPT 4.5では、回答精度と情報正確性が従来モデルから大幅に向上しています。OpenAIが公開したベンチマークテストの結果によると、「SimpleQAベンチマーク」では、GPT-4oが38.2%の正答率だったのに対し、GPT-4.5は62.5%を記録しました<sup>[3]</sup>。同様に、科学的知識を評価する「GPQA Diamond」ベンチマークでは、GPT-4oの53.6%から71.4%へと向上し、数学能力を測定する「AIME'24」では、GPT-4oの9.3%から36.7%へと大幅な改善を示しています<sup>[3]</sup>。

この精度向上の背景には、教師なし学習の大規模なスケールアップがあります。膨大なデータから学習することで、より包括的かつ正確な「世界モデル」を構築し、多様なトピックに関する深い理解を獲得しています<sup>[3]</sup>。

## 高度なEQ（情緒的知性）と自然な対話能力

ChatGPT 4.5の最も特筆すべき進化の一つが、高度なEQ（情緒的知性）と自然な対話能力の獲得です。OpenAIの公式発表によると、人間テスターによる評価では、日常的なシナリオで57.0%、専門的な質問で63.2%、創造性や感情的理解を要する場面で56.8%のケースにおいて、GPT-4.5がGPT-4oよりも優れた応答を提供したと評価されています<sup>[3]</sup>。

この高度なEQにより、ChatGPT 4.5はユーザーの意図をより正確に理解し、微妙なニュアンスや暗黙の期待を読み取る能力が向上しました<sup>[3]</sup>。例えば、感情的な文脈を含む質問に対して、より共感的で建設的な応答が可能になっています。実際にユーザーが試してみると、「テストに落ちてしまってつらい」という相談に対して、「それは本当につらいですね。でもきっと次はうまくいきますよ!」というように、親身になって共感してくれる回答が得られるようになりました<sup>[4]</sup>。

## 長文処理能力の大幅強化

GPT-4.5では、一度に処理できるテキスト量が大幅に増加しています。従来のChatGPT 4（8k~32kトークン）より大きな256kトークン程度を扱えるようになり、大量のテキストを一度に読み込んで要約や分析が可能になりました<sup>[5]</sup> <sup>[1]</sup>。これは英単語にして約20万語に相当する規模であり、モデルがそれだけの情報量を処理できれば、一度に長編小説や分厚いレポート全体、あるいは数時間分の会話履歴を読み込ませて分析・要約するといったことも現実的になります<sup>[6]</sup>。

## ユーザー評価と市場の反応

### 肯定的な評価

ChatGPT 4.5に対するユーザーからの肯定的な評価は、主に以下の点に集中しています。

まず、「圧倒的な人間らしさ」が最も高く評価されています。実際に利用したユーザーからは、AIが返す文章がずっと自然で、人間が話しているような感覚になったという声が多く聞かれます<sup>[4]</sup>。特に感情的なニュアンスを含むコミュニケーションにおいて、まるで友達のように自然に励ましてくれるようになったと報告されています<sup>[4]</sup>。

次に、誤った情報を伝えてしまう問題（ハルシネーション）が大幅に改善され、回答の精度が向上したことも大きなメリットとして挙げられています<sup>[4]</sup> <sup>[7]</sup>。難しい質問や複雑な説明でも、ChatGPT 4.5はシンプルで正確な回答を返すようになり、これまでAIが苦手としていた「自然で間違いの少ない文章」を書く力が明らかに進化しています<sup>[4]</sup>。

また、多言語対応の強化も注目されており、複数の言語での対話がさらにスムーズになったという評価もあります<sup>[8]</sup>。創造的な問題解決能力やライティング能力の向上も評価されており、幻覚（ハルシネーション）の減少と相まって、より信頼性の高い創造的サポートが可能になっています<sup>[8]</sup>。

### 批判的な評価

一方で、GPT-4.5に対する批判的な意見も少なくありません。

最も多い批判は、APIの利用料金が高すぎるという点です<sup>[8]</sup> <sup>[7]</sup>。プロ向けとはいえ、このコストで見合う性能なのか疑問視する声があります。ChatGPT Proの月額が約3万円であることも含め、個人・中小企業が積極的に導入しづらい面があるとの指摘もあります<sup>[9]</sup> <sup>[8]</sup>。

また、性能が期待ほどではないという評価もあります。「GPT-4.5は期待外れ。高いだけで、以前のモデルと大きな違いを感じない」という声や、「Claude-3.7の方が優れているのでは？」という比較意見も見られます<sup>[8]</sup>。特に、数学やプログラミング問題の精度については「そこそこ」という評価があり、文系的タスクや発想支援では高評価を得ているものの、技術系のタスクでは他のモデルを好むユーザーもいるようです<sup>[9] [8]</sup>。

技術者からは、ベンチマーク結果が思ったほど良くないとする意見も見られ、「GPT-4.5のパフォーマンスは想像よりも控えめ。期待していたほどの飛躍的進化ではない」という評価もあります<sup>[8]</sup>。

## 他AIモデルとの比較分析

### GPT-4oとのベンチマーク比較

ChatGPT 4.5はGPT-4oと比較して、主要ベンチマークで優位性を示しています。OpenAIが公開した比較データによれば、特に以下の領域で性能向上が見られます<sup>[3]</sup>：

- SimpleQA回答正確率：GPT-4oの38.2%から62.5%へと24.3ポイント向上
- SimpleQAハルシネーション率：GPT-4oの61.8%から37.1%へと24.7ポイント改善
- GPQA（科学知識）：GPT-4oの53.6%から71.4%へと17.8ポイント向上
- AIME '24（数学）：GPT-4oの9.3%から36.7%へと27.4ポイント向上
- MMMLU（多言語知識）：GPT-4oの81.5%から85.1%へと3.6ポイント向上

マルチモーダル能力を測る「MMMU」ベンチマークでも、GPT-4oの69.1%に対してGPT-4.5は74.4%と、5.3ポイントの改善を示しています<sup>[3]</sup>。

### 競合AIモデルとの比較

ChatGPT 4.5と他のAIモデル（特にClaude 3.7など）との比較では、用途によって優劣が分かるといった評価が主流です。ビジネスやライティングにAIを多用するユーザーにとってはGPT-4.5の投資価値があるとされる一方、高度なプログラミングや数学がメインならば、Claude 3.7やChatGPT O1 Proの方が適しているという意見もあります<sup>[7]</sup>。

特に対話の自然さや創造的なタスクにおいてGPT-4.5は高い評価を得ており、数値化されたベンチマークだけでは測れない質的な優位性があるとされています<sup>[3]</sup>。文章の品質に関する評価では、「自然で読みやすい文章構造」や「温かみがあり情緒的に優れた会話」が可能との評価を受けています<sup>[3]</sup>。

総合的に見ると、GPT-4.5は純粋なベンチマークスコアだけでなく、実用的な文脈でのユーザー体験や創造的タスクの質において優れた評価を受けています<sup>[3]</sup>。特に対人コミュニケーションの自然さ、感性、創造性といった人間らしさを重視するユースケースにおいて、その優位性が注目されています。

### 利用方法と料金プラン

ChatGPT 4.5は、2025年2月28日より段階的に提供が開始されています。基本的なアクセス方法として、ChatGPTのウェブサイト、モバイルアプリ、またはデスクトップアプリにログインし、画面上部から「GPT-4.5」を選択することで利用できます<sup>[3]</sup>。

基本的な使い方はこれまでのChatGPTと同様で、テキストボックスに質問や指示を入力し、送信するだけです<sup>[3]</sup>。GPT-4.5は特に複雑な質問や創造的な課題に対して優れた回答を提供します。

主要機能としては、以下が挙げられます<sup>[3]</sup> [2] :

1. 検索機能：最新の情報にアクセスするために、「Browse with Bing」オプションを利用可能
2. ファイルと画像のアップロード：画像やドキュメントをアップロードし、分析が可能
3. キャンバス機能：長文の作成やコーディングに適したキャンバスモードも利用可能

料金に関しては、現在はChatGPT Proユーザー（月額200ドル、約3万円）に限定して提供されており、今後はPlusやTeamプランにも拡大される予定です<sup>[2]</sup> [7]。ただし、APIの利用料金が従来の約30倍と非常に高額であることが大きな話題となっており、導入を検討する際の障壁となっている面もあります<sup>[9]</sup>。

## 結論：ChatGPT 4.5の総合評価

ChatGPT 4.5は、OpenAIが提供する最新の大規模言語モデルとして、特に人間らしさと自然な対話能力において大きな進化を遂げています。教師なし学習を大規模にスケールアップしたことで、より包括的な世界知識と高度な情緒的知性を獲得し、ユーザーとのコミュニケーションの質を格段に向上させました。

ベンチマークテストの結果からも明らかのように、回答精度の向上や誤情報生成の減少など、技術的な面での進歩は明確です。特に文系的なタスクや創造的な問題解決、感情理解が必要な場面において、その優位性が際立っています。

一方で、高額な料金設定や一部のユーザーが期待していたほどの性能向上を感じられないという課題も存在します。特に数学やプログラミングといった技術系のタスクにおいては、評価が分かれる結果となっています。

総合的に見れば、ChatGPT 4.5は特に対人コミュニケーションの自然さや感性、創造性を重視するユースケースにおいて大きな価値を提供する一方、コストパフォーマンスを重視するユーザーや特定の専門的タスクに焦点を当てるユーザーにとっては、他のモデルとの比較検討が必要になるでしょう。今後のChatGPT Plusなどへの展開や料金設定の変更によって、その普及度も大きく変わる可能性があります。

✻

1. <https://note.ambitiousai.co.jp/n/n899ce1a1e03d>
2. <https://ainformation.jp/article/5456>
3. <https://www.adcal-inc.com/column/chatgpt-4-5/>
4. <https://philipptarohiltl.com/chatgpt-4-5-new-features-review/>
5. [https://note.com/ai\\_freak/n/na650b76c9dcb](https://note.com/ai_freak/n/na650b76c9dcb)
6. <https://sa-today.jp/articles/chatgpt-new-trend-4-5>
7. [https://note.com/just\\_eel2151/n/ne18483969ff8](https://note.com/just_eel2151/n/ne18483969ff8)
8. <https://note.ambitiousai.co.jp/n/nb5cb028f6585>

9. [https://note.com/chaen\\_channel/n/n5b417f7e7281](https://note.com/chaen_channel/n/n5b417f7e7281)